

ARPA・K NEWS LETTER

地域計画・建築研究所



謹賀新年
昭和61年元旦

京都橘女子高等学校：第3回京都美観風致賞(建築部門)受賞(本文8ページ)

アルパック ニュースレター もくじ

NO.15

- ・あけましておめでとうございます 2
- ・変わるものは安定していて変わらないものは変わりやすい 3
- ・ARPAK・K20周年をむかえて、地域おこしの年に 4
- ・まちおこしコーディネーター業の確立をめざして 5
- ・幅広い交流を通して柔軟な発想ができる事務所に 6
- ・旧刊新刊書評 「時市の時代」 7
- ・京都橘女子高等学校、京都美観風致賞受賞 8

あけましておめでとうございます

三輪 泰司

昨年の年頭にあって、「アルパックのイノベーションの年」にすると申し上げました。

年末ギリギリに、本社・京都事務所の拡張・模様替えを終えました。スマートとまではいいておりませんが、会議室を整備し、少しは便利にご利用頂けるようになったかと思えます。大阪・名古屋各事務所とも模様替えをし、まず環境の刷新が一步進みました。

1月11～12日、“教訓に学ぶ”を主題に、恒例の冬の全所研修会を開きます。

「イノベーション」の中味では、情報・財務そして人づくりのアルパック流システム化であります。人づくり、即ち教育と組織のシステムについては、最も時間もかけ、進歩してきていると自負しております。

夏は理念と管理を主に、業務と技術を従に冬はその逆に、業務と技術を主にした全所研修会を柱に、事務所毎の主催する土曜ゼミ、オン・ザ・ジョブの教育・研究プログラムからなる所内システムと、さまざまな研究会に参加したり、お世話したりの所外システム、それらをコントロールする教育・研修委員会と、ほぼ恰好がついてきております。

次に一公表してよい時期にきていると思いますが一情報化研究委員会が指導・統括してOAシステム、ソフト・プログラムの下部組織をもって、情報システムのアウト・プットを発射し始めております。

自分の目と足で見つけ、確かめよというアルパックらしさを大事に、一次情報を丁寧に扱うようにころがけております。早くお役にたてるよう、整えたいと思えます。

“コミュニティづくりを基礎に、地域の計画・事業を進める”を今年のメイン・テーマに、業務の推進・展開をころがけます。

関西新国際空港・関西文化学術研究都市など全関西の事業に大阪テクノポート・六甲アイランド・西播磨テクノポリス・洛南サイエンスタウンなど、さらにこれらをまとめて、近畿創生スバルプラン・近畿活性化総合プロジェクトと大型プロジェクト・ラッシュの観があります。

これらは、大プロジェクトの論理とともに分解してよく見ると、そこには地域の人びとの生活があり、地域をつくっていく事業でもあります。

それは、文化会館や学校をつくる事業においても同様です。

そこで大事なものは、地域の人びとが自らも汗をながし、協力・共同の実を上げることであります。

隗よりはじめよ、と申します。私たちも自分のこととして地域の計画と事業に取り組んでゆきたいと思えます。

この「ニュース・レター」を発行し始めて2年半になります。振り返って、改めてコミュニケーションこそ限りないフロンティアを拓くカギであると思えます。

今年も、ますます元気旺盛に、チャレンジし、レスポンスを返してゆきます。

よろしくご愛顧頂き、ご指導、ご鞭達頂きますよう、お願い申し上げます。

(みわひろし 代表取締役社長)

変わるものは安定していて 変わらないものは変わりやすい

糸 乗 貞 喜

新年のあいさつの言葉としては、いささか不謹慎のように思えますし、また、子供のなぞ遊びのようですが、この1年は特に「変わるものほど安定していて、変わらないものは不安定だ」ということを身にしみて感じさせられました。そのひとつが九州事務所での経験。

59年の秋から、九州事務所（九州地域計画研究所という別会社でもある）の責任者を兼ね、「今まで通りだと、おいてけぼりを喰うぞ、つぶれてしまうぞ」を口ぐせに所員と共にならばってきました。その中で「ひらかれた事務所づくり」を目指して、都市づくりや地域づくりにかかわるテーマで、「アルバック九州地域ゼミ」を、こんな仕事にかかわりのある人たちの参集を得て行いました。

はじめは、「このいそがしいのに、なぜ仕事とも関係のないことをヤイヤイいうのか……」というような冷たい眼で見られながら、所員に「頭を柔軟にしなければならん」、「柔軟な仕事をするには幅広い人のつながりがある」といって、無理矢理に続けました。

2回、3回と続けるうちに、外の人たちと一緒に勉強するのが面白くなり、ついで所員もそれぞれが柔軟性を身につけるようになりました。

もうひとつは、兵庫県の方での仕事の話。60年夏から地場産業の振興策づくりのお手伝いとして、産地の人々と話し合いをもつ機会がふえました。

その中で感じたことは「地場産業の歴史は、変革の歴史である」ということでした。自己

変革の力のない産地は衰退したり消えたりしていて、新しい商品開発をしているところが一層の発展をしてきています。特に印象に残っているのは、「うちは30年前に開発した商品がまだ売れているし、今だにほとんどこの商品に頼る姿勢がぬけません。20年で変わらんといかんと言われていたし、いろいろ工夫しているのですが、なかなか商品にならなくてあせっています」という言葉でした。

この工場の中にはNC（数値制御）工作機械が並んでいるし、その中にはロボットも活動している。さらにここでいわれている商品は全国の80%ぐらいのシェアを占めている圧倒的に優位な商品であるにもかかわらず「30年寄りかかっているのは不安だ」ということがいわれていた。たしかに地場産業を調べてみると20年ぐらいで何らかの変身をしている例が多い。「変わらないとおくれてしまう」という声は、まさに今の日本の現状を反映していると思いました。

ミシンの会社が、一つは変身して（ブラザー）、ワープロを売って高く評価されているし、一方は変身しなかったために（リッカー）倒産してしまったというのも、昭和60年の大きい出来事でした。

私どもの事務所も、今年で20周年です。変身を目指してがんばりたいと思いますので、相変わらぬ御鞭撻をお願いいたします。

（いとりのさだよし）

ARPA・K20周年をむかえて、 地域おこしの年に

金井 萬造

皆様方の厳しい批判と暖かい励ましの中で昭和60年も終わり、新しい年を迎えています。

20周年をむかえて、ここまでコンサルタントとしてやれてきたことに対して深くお礼申上げる次第でございます。

大阪事務所として、コンサルタントらしい取組みをめざし、初心にかえってやっていきたいと思っていますので本年もよろしく御指導お願いします。

昨年をふりかえてみますと地域振興とその活性化をめざした新しい取組みの芽がいくつか出てきた年だったと思います。

例えば、地域産業フォーラムづくりに参加できたことです。産業フォーラムといっても、本来の姿である民間活力による方法や官民協力によるものなど多くのケースが考えられます。(尼崎市、舞鶴市など)、また、社会的研究会に参加できた年でもありました。例えば、情報交流、地域振興、方法論研究などの研究会で、民間、産官、産学、コンサル間など多様な形式で行なわれ、その基礎が固められた年でありました。さらに、コンサルタントとしてのチャレンジ精神を発揮して、新しい分野の開拓が意識的にやれた年でもありました。例えば道路計画(景観)、産業振興、環境計画などで今後さらに努力が必要な分野でもあります。

このような取組みでわかったことは、常にチャレンジ精神を発揮し、人と人のつながりを大切に、常に勉強をおこたらず、先端分野に近づいていく努力が基本となるということです。コンサルタントとして、地域の発

展に役立つためには、まず自らの人づくり、組織づくりから始めることが基本であることを痛感しました。

今年は、事務所の20周年の年にあたります。この1年の私の願いは、昨年の取組みを発展させることにありますが、つぎのことに努力したいと思っています。

- ① 地域おこし、地域活性化にチャレンジしていくこと。
すでに、取組みが計画されているもの(商店街活性化シンポ、港湾都市シンポ)に加えて一層の努力をしたいと思えます。
- ② 産業フォーラムなど地域おこしの母体となる「組織づくり」、「組織の活性化」に貢献できるように努力をすること。
- ③ 「地域に役立つコンサルタント」として、地域振興プロジェクトを一つ一つ前進できるように努力をすること。
- ④ コンサルタント技術者のエネルギーの源泉である「知識、技術、事例」をより多く身に付けるための取組みを進めること。
- ⑤ 何よりも、皆様方の批判に答えて、「役に立つ」コンサルタントをめざして研究所内のチーム間連携と総合力が発揮できるようなビビッドな組織となるよう努力してまいります。

(かないまんぞう 大阪事務所長)

まちおこしコーディネーター業の 確立をめざして

尾 関 利 勝

グローバルな視野を持ちつつローカルな立場で自らのアイデンティティーを持って仕事する集団、少し言い換えれば、時代感覚と地域感覚を主体意識の中でバランスさせながら仕事する集団づくりをめざして、名古屋で走り回り始めて早や3年が過ぎた。

主観的な思い入れとは裏腹に、行き届かない結果の仕事もあり、昭和60年は反省の多い年でもあった。改めて誌面を借りて関係者の方々にお詫びすると共に、力不足の私達を暖く見守って頂いた周囲の方々に厚くお礼を申しあげたい。

この3年間は、取あえず、私達の様な文化雑貨屋的都市計画事務所が、目的意識的に言い換えれば、まちおこしコーディネート事務所が存立するかどうかの試金石の期間でもあった。結果として、つぶれる事なく生きて来られた。4月からは新たなメンバーを加えてもう一步、目的に近づきたいと考えている。

まずは、私達が名古屋地域で歩き始める第一歩になったと思っているが、さてこの先、歩き続けられるかどうかの自信は今のところまだ無い。地域的な状況も然る事ながら、私達の様な職業（都市計画ソフトコンサルタント、又はシンクタンク、又はまちおこしコーディネーターなどなど）が、まだ社会的に確立していないところが自信の無さの背景にある。コンサルタント業としては、ハードな成果については、それなりに評価も報酬も確立しているが、一般にソフトな業務は評価はあっても報酬は確立していないと言える。

「まちづくりの三キチ」と言う言葉が、再

開発事業や商店街の近代化の中で普遍化しつつある。三キチとは3人の気狂と言う意味で、当時者である地権者や商業者と、行政の担当者、そしてコンサルタントなどのコーディネーターの3者の気狂が居る所は事業が成功していると良く言われている。この様に特定の事業では私達の立場が認知されつつある。

この3年間、自らのポジションを得るべく無我夢中に走り回ってきた。自らのポジションを確立するために努力し続ける事を基本的な命題としつつ、今一步、職業としての私達の立場の確立をめざしていく事が、これからの私達にとって大きな課題でもある。

日本の都市計画コンサルタント（ソフト系）が育ち始めて20年～30年になろうとしている。人口の高令化は社会現象としてだけでなく、私達の職業の周辺にも起き始めている。腕力だけに頼っている仕事では、体力のある年代はまだしも、ライフワークとし一生を懸ける事ができなくなって来る。ボランティアとしての自己満足はあったとしても、時代を受け継ぐ若い人達に、生きがいのある仕事として伝承して行く事が難しくなって来る。

職業の確立は今に始まった事ではないし、また短時間で達成し得る事とは思わないが、まだまだパイオニア的職業として自認しつつ、次の20年～30年をめざして新たな展開を始めなければならない。その第一歩となる年でありたいと考えている。

（おぜきとしかつ 名古屋事務所長）

幅広い交流を通して 柔軟な発想ができる事務所に

永田 伊津夫

九州の地域に根ざすコンサルタントとしてやってきました当事務所も今年で10周年を迎えるまでになりました。この間、いろいろな方々のご指導、ご協力をいただきながら、何とかこれまでやっていくことができました。10周年という節目を迎える今年は、新たな事務所発展の年として、所員一同さらに努力するつもりです。

昨年は、所員全員で営業に努力し、各方面の皆様のご支援を受けながら、特定住宅市街地総合整備の調査（福岡市）、下関のフォーラム作り（NIRA）、商店街近代化事業委員会（延岡市）など、新たな分野での業務にも取り組むことができました。

また、業務などを通して教えをいただいた方々の話をさらにいろいろな方に聞いていただき、合わせて、様々な業種の方々との相互

交流を深めることを目的に「九州地域ゼミ」を昭和59年12月よりほぼ月1回のペースで開いてきました。下の表がこれまでのゼミのテーマと講師の方々です。昨年末には、よく参加いただいた方々と交流会も開き、ゼミに対するざっくばらんな意見も出してもらいました。今年も、月1回くらいのペースで開き、さらに多方面の方々に講師としておいでいただき、ユニークで面白い話をしてもらい、また、ゼミ参加者の方々の横の交流も深めたいと考えています。尚、ゼミに興味をお持ちの方がございましたら、ご連絡ください、ご案内させていただきます。

これからも、皆様のご期待にそえるようがんばりますので、よろしく願いいたします。

（ながたいつお 九州地域計画研究所）

— 地域ゼミ経過 —

第1回	昭和59年12月4日	『土地信託について』	講師 住友信託銀行本店 営業本部	森井章二氏
第2回	昭和60年1月30日	『新天町とまちづくり』	講師 新天町商店街振興組合	柴田理事
第3回	昭和60年3月1日	『ニューメディアとまちづくり』	講師 西日本ケーブルテレビ株式会社専務取締役	中島省吾氏
第4回	昭和60年3月13日	『中国のまちづくり』	講師 九州大学 工学部 建築学科	青木正夫教授
第5回	昭和60年4月17日	『福岡の住宅とまちづくり』	講師 九州産業大学 工学部 建築学科	弘永直廉助教授
第6回	昭和60年5月28日	『産業連関表の仕組みと見方』	講師 福岡通産局総務部調査課	野口和範氏
第7回	昭和60年6月26日	『民間活力による駅前商業再開発』	講師 株谷沢総合鑑定所	岡村秀樹氏
第8回	昭和60年7月15日	『豊田市優良再開発建築物整備促進事業』 (桜町のまちづくり)	講師 株地域計画・建築研究所 名古屋事務所	尾関利勝所長
第9回	昭和60年9月25日	『公団住宅設計の変遷』	講師 住宅都市整備公団 九州支社 住宅事業部市街地開発課	中田雅資課長
第10回	昭和60年11月15日	『金融面から見た再開発事業への取組みについて』	講師 福岡銀行 業務開発部 調査役	牛島博文氏

旧刊新刊書評

「都市の時代」

日本都市問題会議関西会議編
都市文化社発行

糸 乗 貞 喜

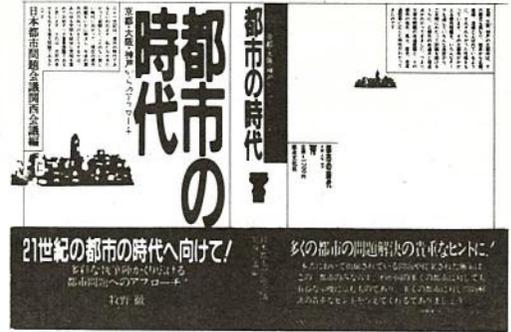
去年、関西では百貨店がよく流行った。出発当初はいろいろ言われた大丸駅前店も好成績のようだし、その向いの阪神百貨店は、タイガースの進撃・優勝にのって、流行語で言えば、“激売”的に流行った。また塚口の近くで伊丹市と尼崎市にまたがって“つかしん”がオープンし、ゾロゾロ都市人間が集まった。

これらの購買行動の原点は、タイガースブームは別として、「とっつきやすく、楽しくて、しかしちゃんと本物の味がのぞいている」ということのようなのだ。

話がかわってもうひとつ。秋たけなわな頃、関西の都市問題のデパートのような本が出版された。題して『都市の時代』。少し各章のテーマを紹介してみると、「1、大都市問題への視座、2、大都市の人口問題とインナーシティ対策、3、大都市の住宅問題、4、大都市の交通問題、5、大都市の魅力、6、大都市の病理現象、7、大都市の景観問題、8、大都市の文化問題、9、首都圏と近畿圏、10、都市の時代へ向けて」となっている。

テーマを見ていただければわかるように、魅力を語ったと思ったら、病理現象を語り、景観を語る。そしてインナーシティ対策や住宅スラム問題を考える、まさにデパートである。

しかし商品の中味がなかなかいい。この本はもともと日本都市問題会議関西会議という長い名前の団体が2年の長きにわたって続け



てきた研究会の内容を編集したもので、内容の水準はずいぶん高度なものでありながら、報告書がもとになっているのでわかりやすい。そのために、「とっつきやすく、楽しくてちゃんと本物の味がする」という最近の流行にもなったものになった。

この関西会議の特色を安好匠初代代表世話人の序文からひくと「関西会議の特色は、京都、大阪、神戸の三都市が中心になって「大都市問題」をテーマに、とくに実践理論を研究し、情報や意見や人間関係の交流が行なわれることです。会員は、京阪神三都市の行政の幹部、学者、コンサルタント、ジャーナリスト等で会場は三都市廻り持ち、2年間の計画表に基づいて、毎月例会か現地研究会が開かれます。例会は、まず基調報告があり、それに関連して三都市からの報告があり、質疑討論が行なわれます。」となっている。

これらの研究会の成果をまとめたものがこの本で、執筆メンバーも錚錚たるものでありながら、それでいて肩のこらないものとなっている。

この本ならば、少々「御用とお急ぎの方」でもデパートへ寄っていただいて損をさせません、どうぞよろしくお引立のほどを……。 (なお、私も奥付を虫めがねで見ただけは、編集委員の中に名前を出させていただいています。)

(いとりのりさだよし)

京都橘女子高等学校

京都美観風致賞受賞

ニュースレターNo.10の表紙写真に載せました京都橘女子高等学校が、去年の12月、第3回京都美観風致賞（建築部門）を受賞致しました。手前みそで恐縮ですが紹介させていただきます。

概要 所在地 京都市伏見区桃山町伊賀50
敷地面積 27,000㎡（有効24,800㎡）
延床面積 16,800㎡
建築面積 5,690㎡
構造 SRC・RC造、地上2階・地下2階
計画 昭和56年5月～
昭和58年6月
工期 昭和58年7月～
昭和60年3月
地域地区 第一種住居専用地域
第一種風致地区

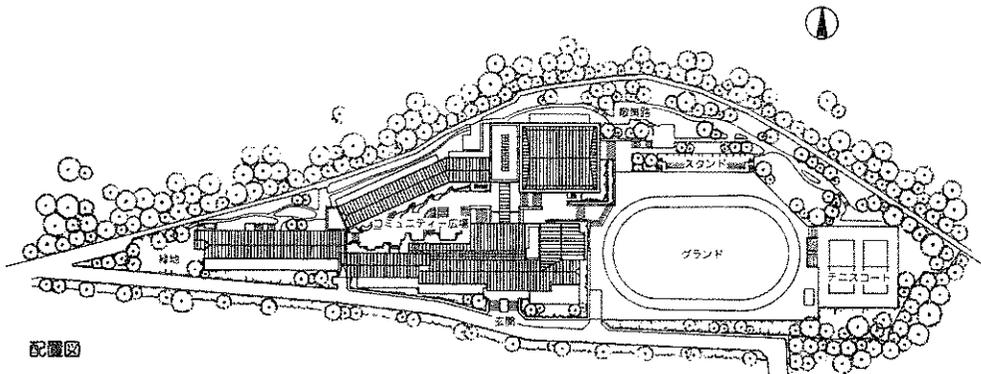
計画設計監理 地域計画・建築研究所
施工 戸田建設

担当者コメント

最近の教育、学習形態の変化、多様化により、従来の画一的で定型化された校舎づくりや教室だけが学習環境といった考え方から、学校環境のすべてが教育の場と考える多様な展開、豊かな環境づくりに目が向けられはじめています。

このような背景の中で、京都市都心部から自然環境豊かで歴史のある伏見の地へ移転がおこなわれた。

計画では、これからの新しい学校像をめざし、生活とうるおいのある緑豊かなキャンパスづくりをめざした。表紙写真は、生徒のいこいの広場となるコミュニティ広場である。また、屋内には、生活の拠点となるコミュニティモールやホール等をもったユニークな学校づくりにつとめた。



ARPA・K (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

- 本社 事務所 ☎600 京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82 TEL (075)221-5132(代)
(大和銀行京都ビル8階)
- 大阪事務所 ☎540 大阪市東区石町1丁目1番地 TEL (06)942-5732(代)
(天満橋千代田ビル2号館)
- 名古屋事務所 ☎460 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 TEL (052)962-1224
(ツボウチビル6階)
- 九州地域計画研究所 ☎810 福岡市博多区中洲中島町3-3 児島ビル3階 TEL (092)281-2349
- 北海道地域計画建築研究所 ☎047 小樽市色内1丁目2番19号 通信浜ビル3階 TEL (0134)29-1109